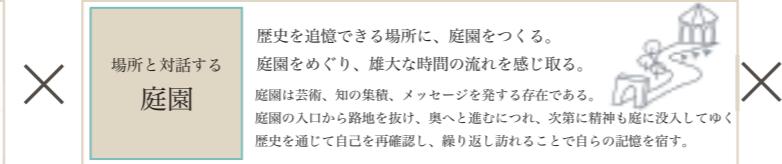
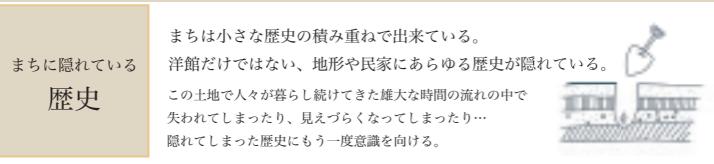


まちの文化と記憶を紡ぐ庭園 使うことで生き続ける歴史空間の提案

寺西遙夏



4. 提案 まちに点在する追憶の庭園



1. 敷地 神戸市垂水区塩屋町 「開発から取り残されたまち」

海に迫るような六甲山の西端と、外国人住宅地がある通称「ジェームス山」と呼ばれる小さな山に挟まれるまち。風光明媚な斜面地で、戦前に外国人が移り住み、洋館や邸宅が建てられた。戦災や震災の被害も小さく、複雑な地形であるために開発が行われず、今でも古い町並みが残っている。



塩屋のあちこちに時代を超えて存在している風景

多い時で70軒ほどあった洋館のほとんどは失われ6軒のみ現存している。
水島あかね・浅見雅之・玉田浩之「地域資産としての近代住宅の保存継承に関する研究ー神戸市塩屋を対象としてー」(2016)より



人々の居場所になる公共空間

庭園をまちの人々の公共空間として使う「庭園型公共施設」
帰属意識を持つ物質的・心理的な居場所
まちの記憶を宿す歴史空間を公共空間としてまちの人々が使う。
公共空間はまちの文化を育み、街への帰属意識を高める場所をとして人々の心理的な居場所になる。

2. リサーチ 公共空間になっている洋館

まちの歴史空間を公共空間として使う

歴史空間 記憶を宿す場所
(まちの雄大な歴史を通して自分の居場所を再確認する)

公共空間 まちの人々の居場所
(公民館や児童館、図書館など)

帰属意識を持つ場所

これからの公共施設は従来のように、機能的に存在しているだけではなく
まちの多くの心理的な居場所になること
まちへの愛着を深める場所になること
そして、それによって
まちの人々に愛され続ける場所になること
が必要だと思う。

現存する洋館のうちのひとつ、旧グッゲンハイム邸は地域の音楽イベントやヨガ教室、結婚パーティーなどに使われている。

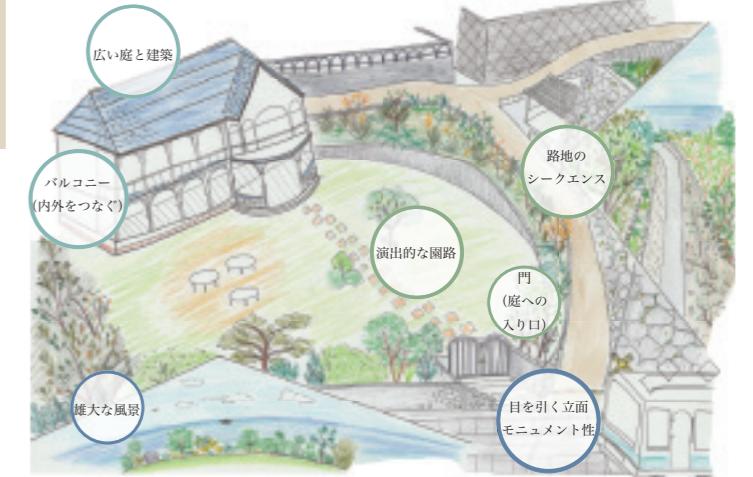


保存された歴史建築を観賞するではなく、まちのなかで生き続ける歴史空間。
まちの人々で使い続けることによって、建築は維持され人々の意識の中にもり続ける。

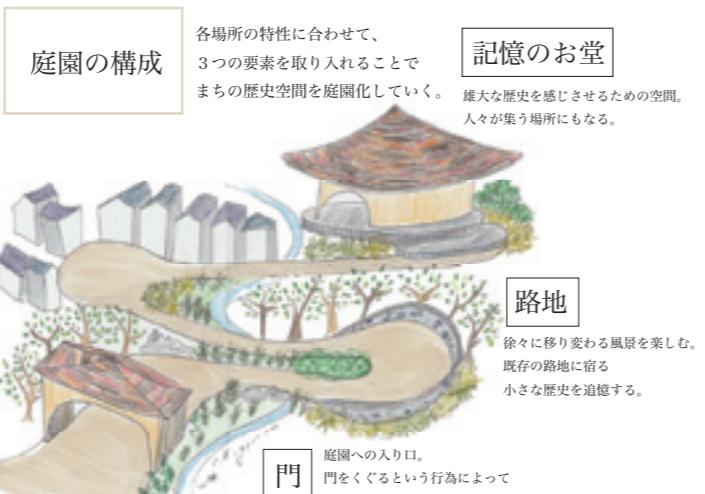
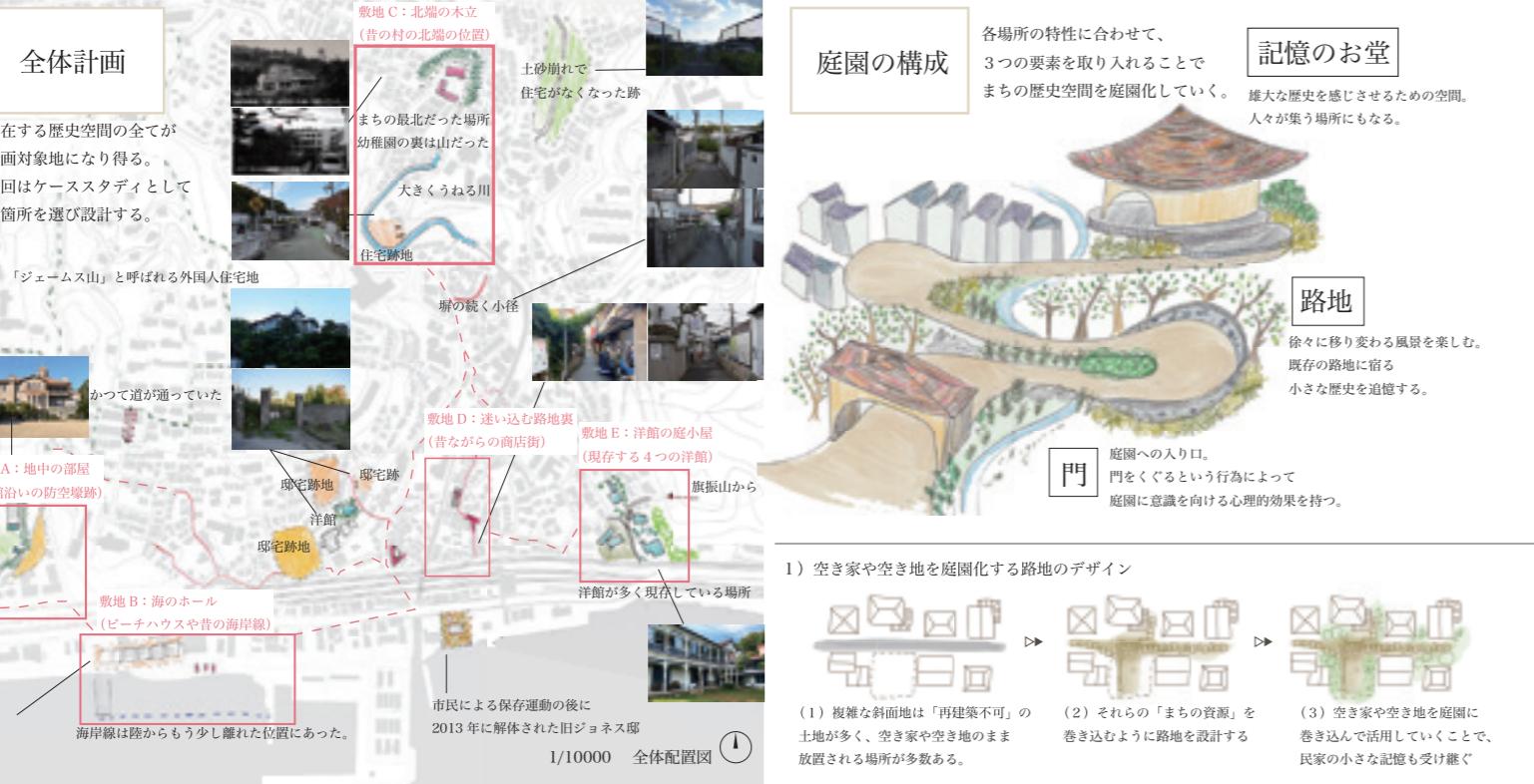
3. 分析 庭園の公共性とまちの文化

旧グッゲンハイム邸がまちの公共空間になり得た空間的要因が庭園にあると考えた。

社交場の庭で土地の魅力を共有する



集う空間
印象的な風景
空間への没入感



- 空き家や空き地を庭園化する路地のデザイン
 - 複雑な斜面地は「再建築不可」の土地が多く、空き家や空き地のまま放置される場所が多数ある。
 - それらの「まちの資源」を巻き込むように路地を設計する。
 - 空き家や空き地を庭園に巻き込んで活用していくことで、民家の小さな記憶も受け継ぐ。

庭園型公共空間

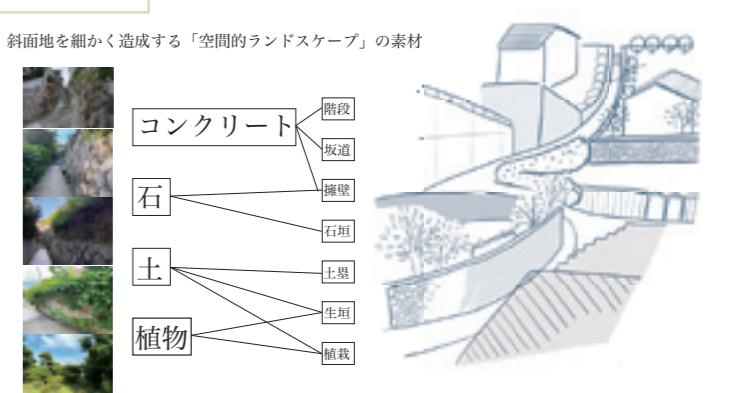
まちの人々の活動場所や居場所である
公民館や児童館、図書館に代わる公共施設を提案する。
まちに点在する庭園空間の特徴に応じて、活動場所を選ぶ。



- 庭園どうしをつなぐ道は、まちという大きな庭の園路である
 - まちに庭園が点在している。
 - 庭園どうしをつなぐ道を園路として捉える。
 - まち全体が大きな庭園であり、まちの全てが歴史と捉えられる。
- まちに点在する庭園をめぐりながら、このまちの歴史と魅力を発見していく。

経年変化が美しい素材

まちの歴史を紡ぐことを目的としている庭園には「経年変化が美しい」素材を用いることで、何十年後かの未来まで時代を超える価値を持つことを目指す。



- 斜面地を細かく造成する「空間的ランドスケープ」の素材
 - コンクリート (階段、坂道、擁壁)
 - 石 (石垣、土壌)
 - 土 (土壌、生垣)
 - 植物 (植栽)
- 新しい銅板は光を反射する赤褐色
次第に落ちていた褐色から黒褐色になる
銅錆が出てきて緑青色になる
一般社団法人日本銅センターホームページより
- 古くて新しい風景を印象的に魅せる
やがてまちの風景として馴染んでいく



地中の部屋

敷地 A：ジェームス邸の擁壁沿い

歴史：

塩屋に外国人住宅地を開発した英国人
ジェームスの旧邸宅が小高い丘の上に現存している。
旧ジェームス邸は結婚式場やレストランとして活用中。

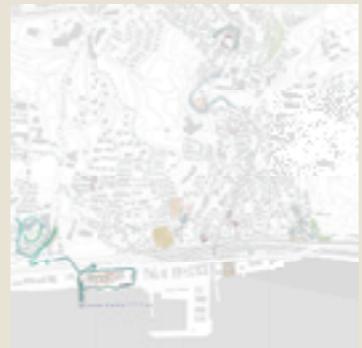
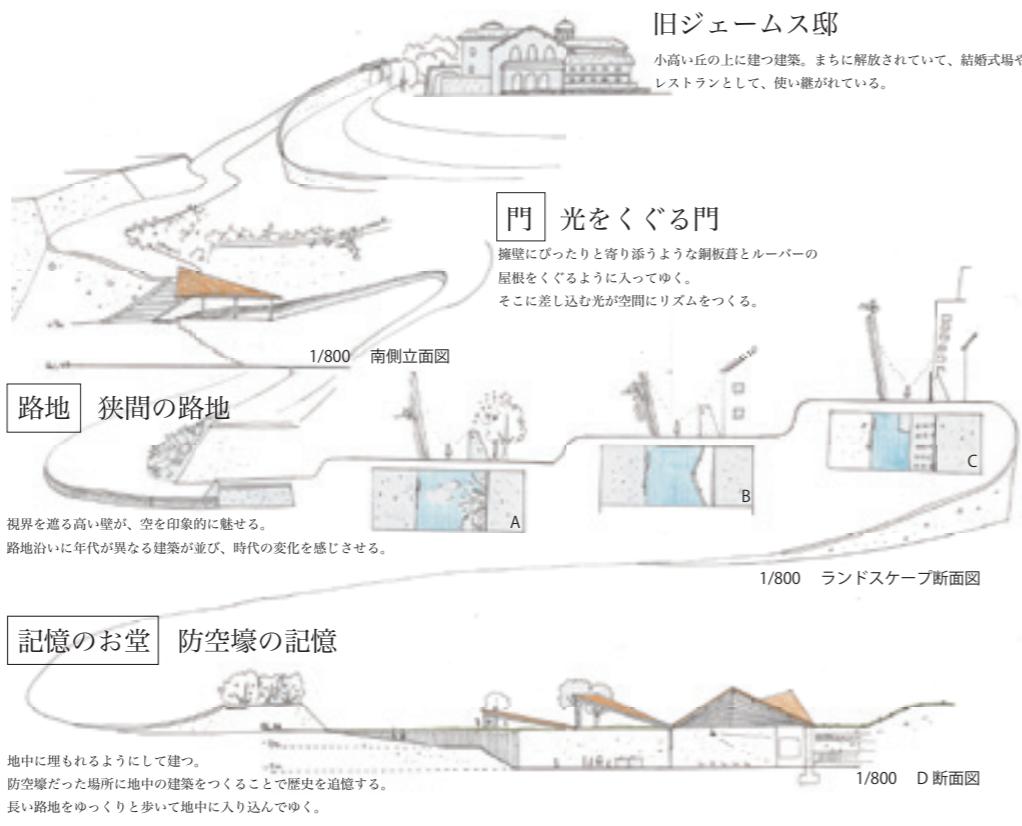
洋館があったことで戦災を免れたと言われており、
戦時中はこの擁壁沿いに防空壕を掘っていた
という歴史から、
ここに地中の部屋をつくる。

空間の特徴：

長く、静かな、擁壁の狭間の路地
暗く、落ち着いた大空間

用途：

映写室や舞台芸術、演奏ホールとして



海のホール

敷地 B：漁港のとなり

歴史：

かつては海沿いに外国人のビーチハウスやリゾートホテルが立ち並び
塩屋の村の人々も海での娛樂を楽しんでいた。
近年は、海沿いの幹線道路の拡大とマンション開発が進み
海と暮らしが断絶されてしまった。
そこで、海のそばで過ごす空間をつくる。
桟橋の先端は後退してしまう前の昔の海岸線の位置を示す。

空間の特徴：

大きな空間、音がよく響く

用途：

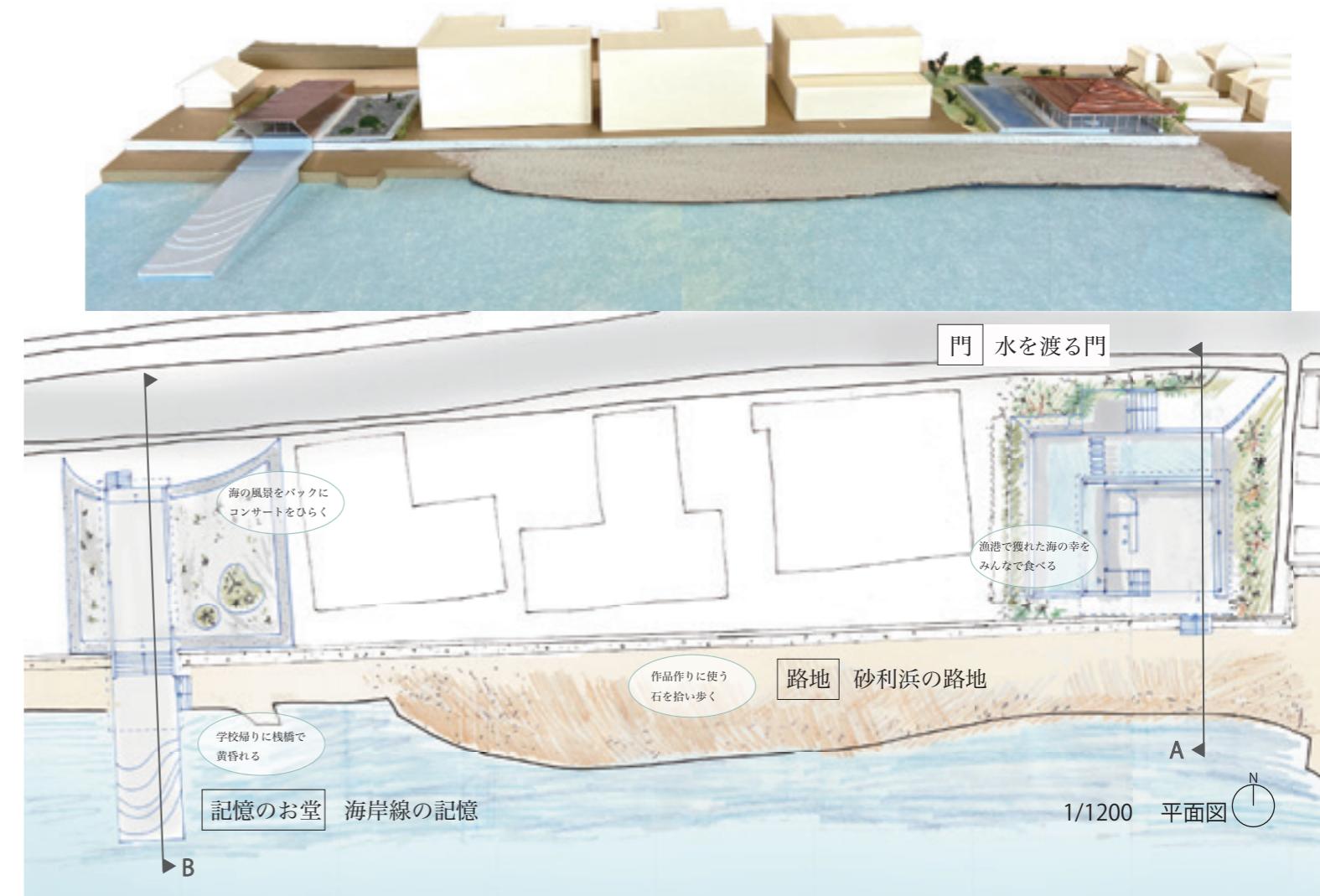
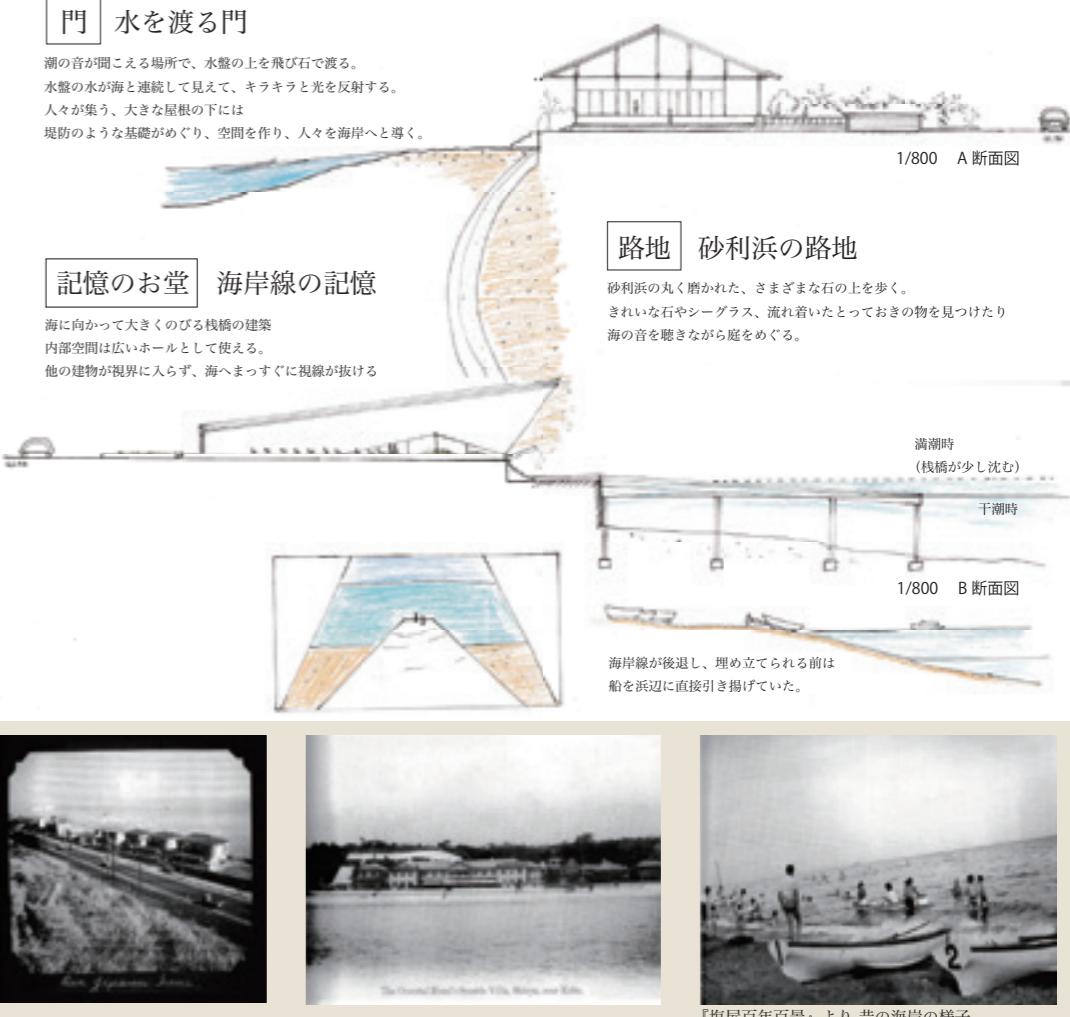
パーティーやセレモニー
潮の音で気持ちを落ち着かせたいとき

門 水を渡る門

潮の音が聞こえる場所で、水盤の上を飛び石で渡る。
水盤の水が海と連続して見えて、キラキラと光を反射する。
人々が集う、大きな屋根の下には堤防のような基礎がめぐり、空間を作り、人々を海岸へと導く。

記憶のお堂 海岸線の記憶

海に向かって大きくのびる桟橋の建築
内部空間は広いホールとして使える。
他の建物が視界に入らず、海へまっすぐに視線が抜ける





北端の木立ち

敷地 C : 小学校周辺

歴史 :

かつて塩屋小学校の周辺はまだ住宅地開発が行われておらず森に囲まれるように小学校があった。塩屋村の北端だった場所である。

今では北に大きくまちが広がっていて、その発展の歴史を追憶できるように小学校周辺に木立ちと共に群生する建築をつくる。

空間の特徴 :

子供たちが多い場所
森に囲まれた静かな場所
蛇行する川や、谷底の斜面によって地形の変化に富んでいる。

用途 :

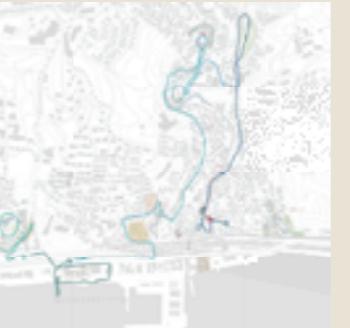
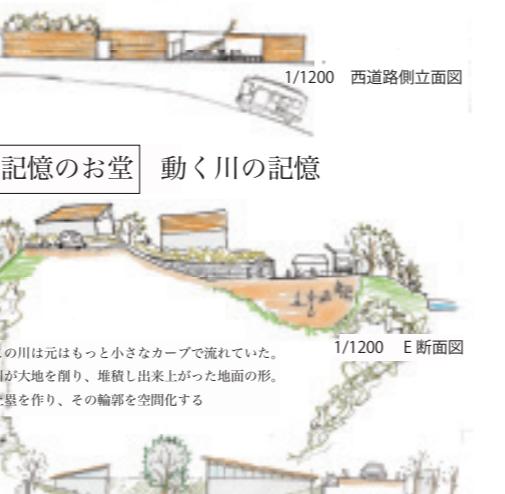
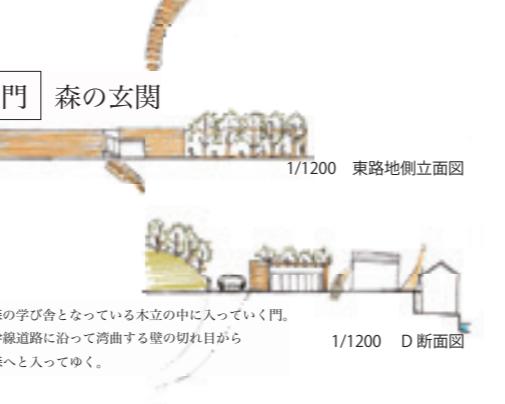
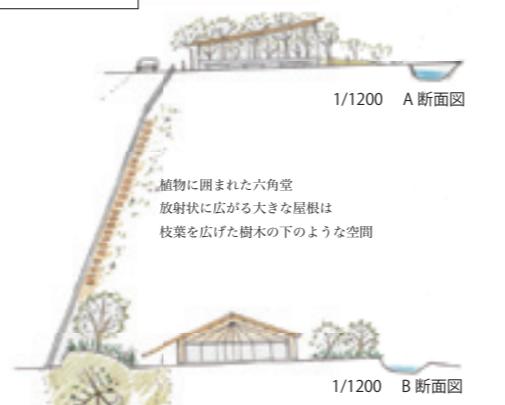
学習室、託児所、子育て教室
文化教室、レクチャー

落ち着いた環境と、子供たちの遊び場



記憶のお堂 北端の森の記憶

1/1200 A 断面図



迷い込む路地裏

敷地 D : 路地商店街の裏

歴史 :

傘をさしますれ違えないほどの狭い路地にある商店街。範囲は縮小したが、今でも塩屋の生活を支えている。

狭い路地に面するため再建築不可の土地が多い。

商店の裏に増えている、空き地や空き家を活用して路地裏に迷い込むような庭園をつくる。

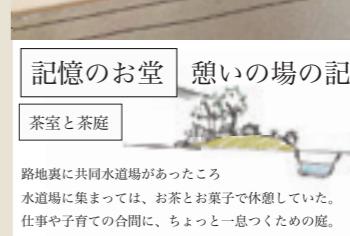
路地裏は昔から共同水道場など、交流の場だった。

空間の特徴 :

駅前で人通りが多い
商店街との連携ができる

用途 :

談笑の場や、イベント広場として



記憶のお堂 北端の森の記憶

ホー

ル

A

B

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル

ル



洋館の庭小屋

敷地 E : 4つの洋館周辺

歴史:

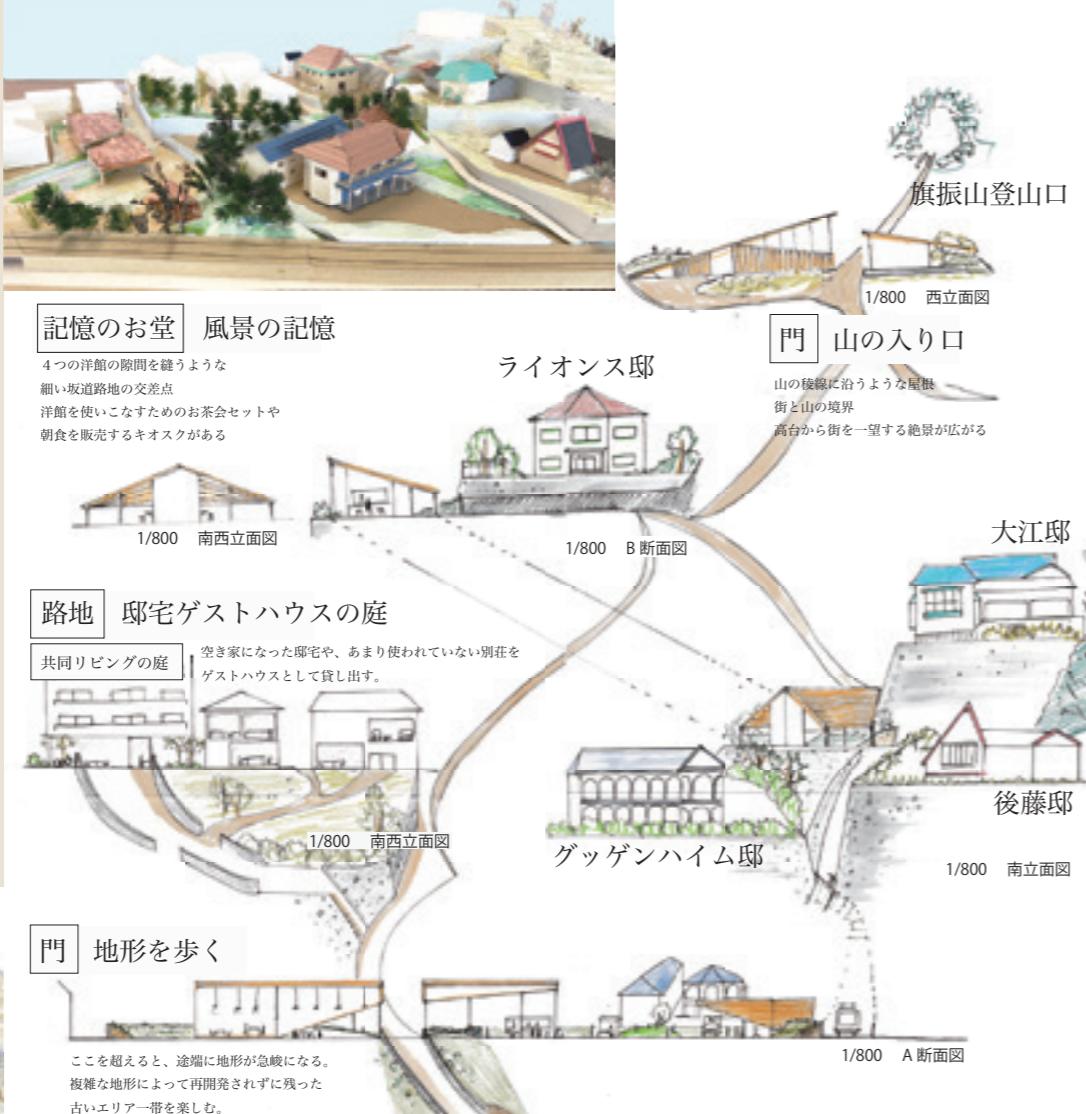
100年以上この土地に建つ洋館と邸宅が4つある。複雑な土地造成によって、生まれた複雑な路地から風景を楽しめる場所がいくつもある。ここから見える風景は100年以上前から時代を超えて愛され続けてきた。風景と路地のシーケンスを楽しむ小屋をつくる。

空間の特徴:

狭い坂道路地から見る美しい風景
あちこちの邸宅が持つ庭
目を引くデザインの邸宅の数々

用途:

イベントホール、お茶会、結婚式、ゲストハウス
まちの玄関、応接間として



さかねさん、りさちゃん、かぶとくん、まほちゃん、みなこちゃん、

木下くん、長岡くん、さかきのまきちゃん、さとうのまきちゃん

この卒業設計に協力してくれたみなさん本当に感謝しています。ありがとうございました。

そして、ずっと一緒に設計をしてきた同級生のみんな、ありがとう。

たくさん話して、相談して、考えてきた時間で学んだこと、建築を楽しめたことが宝物です。

尊敬できる仲間たちと、優しさにあふれた先生たちがいる 横国建築学科で学べたことが何よりも嬉しく思います。

そして、そして、塩屋を愛する神戸のみなさん。塩屋の魅力を教えてくださいありがとうございました。

調査するたびに塩屋の素敵なお人、場所、風景に出会えたことが、この1年間のモチベーションにつながりました。

塩屋のように愛され続けるまちを支える建築や、まちが愛され続けるための建築、

まちと人々に愛され続ける建築をこれからも考えていくたいです。

Comments from Classmates

はるちゃんとの帰り道には学びや気付きが多くて、今思うとわたしが卒業を目指したものみたい。(既存の) 路地と門と建築という3つを設定して庭園をつくっていくという話はわくわくしたし、自分も歴史を重ねようと屋根を銅板焼きにしようと聞いたときはどきっとしました。これからは春か秋に散歩しましょ。

阿部ほなみ

歴史・記憶を建築にするというテーマからも、そのテーマに対して門・路地・お堂という段階的な経験を通して歴史を味わう庭園建築をつくることからも、時間や歴史の物語を大事にしていることがよくわかる。テーマも建築も伝え方もたくさん悩んでいたけれど、建築で何をやりたいのかをまっすぐに表現できていると思う。

亀井美里

1年間同じ街のことを考えていると、どうしてもこの街はこうだと決めつけてしまうけれど、はるちゃんは塩屋にたくさん言葉を与え続けて、実験するみたいに建築を作っていていいなあと思いました。建築で街をつくるってことが庭園というまとまりをもつことで、楽しくも、塩屋になくてはならないものになるのだと思いました。
近くで作業したり話して、もっと頑張らなきゃって何回も思った！ほんとうにありがとうございます。

榎原真歩

名もない歴史に焦点を当てて、時間と建築の関係を新しく設計するというテーマに寺西ちゃんの生き方に通底する思いを感じました。庭園型公共空間が今までの公共施設に代わる提案などは自由で伸びやかな発見だと思う一方、庭園の構成を5つの敷地に全てに当てる部分は型が強く惜しいと思いました。(住宅課題から含めて、記憶のお堂のような「内空間」よりも、塩屋という土地などの「環境を空間」として楽しく設計しているところが寺西ちゃんの上手さんなんだなあと感じるし、ドローイングでも表現されている思います!) YGSAでも頑張ろう！

藤澤太朗

土地の歴史を今に伝える遺物をただ残すのではなく、現在の街の営みの中に位置付け直すことで、その歴史の上に生きていることに自覚的になるという考えはとても良いと思ったが、それぞれの敷地での過去の現し方は意識されている割に、それら庭園が既存の公共施設に代わる役割を果たすという点があまり設計に反映されていないように見えた。どれもが門と路地とお堂という共通の構成を持つことも、それぞれが根拠とする過去の記憶を大事にするという意思が主となって設計されているからかと思うが、それだけでなく現在の塩谷の街の公共空間として全体を考えたら、一つ一つ異なった形での過去との向き合い方があったのではないかと感じる。

高橋健

圧倒的作業量と積み重ねをいつも感じます…。本当にすごい。街に潜む小さな歴史の一つ一つに目を向けさせるための工夫の数々によって、今ある街を大切にする姿勢が、ここに住む人々に醸成していくのだと思いました。とは思いつつ、想定している活動がやたら建築の内部で起きていて、しかも内部と外部がどういう関係になっているのかがあまり積極的に表現されておらず、設計した建築が彫刻のように街の中に点在していて、それを巡る中で街の歴史性を発見していくように見えてしまうのは非常にもったいなく思われました。だけど、実際にこんな建築が建ったら良いよね、普通に行つてみたい。(そういう意味ではパースとかもう少しあると良かったかも…?)

馬場一輝